

二〇一九年七月一日(参加者二名)

風孕み噴水昇り龍と化す	素秀
黴の堂覗けば光る閻魔の眼	菜々
黴びたれど定年の靴捨てがたし	よう子
噴水の背山貫き高々と	はく子
噴水に神々集ふローマかな	もとこ
黴匂ふ青春の日の写真帖	わかば
臍の緒の小箱筆筒の黴にほふ	小袖
気まぐれな噴水出たり出なんだり	ぼんこ
歳時記は恩師の形見黴匂ふ	明日香
本棚を陣取る黴の広辞苑	こすもす
洞窟の古りし神棚黴にほふ	たか子
ふつつつと醬の育つ黴の蔵	はく子
駅頭の噴水上下繰り返し	董雨
堂に満つ五百羅漢の黴の息	うつぎ

ほほえみをたたへて黴の菩薩像  
よし子

山小屋の雑魚寝の布団黴匂ふ  
うつぎ

噴水に真向き背きて人を待つ  
うつぎ

と見る間に消ゆ噴水の小さき虹  
素秀

百年を経してふ黴の醤油蔵  
やよい

噴水のもぐらたたきに子等遊ぶ  
満天

WEB句会みのる選・二〇一九年七月一日